

## 「在宅医療サポートセンター」事業

事業実施期間  
平成27年4月～平成30年3月

団塊の世代が75歳以上となる平成37年になると、高齢化が進み医療の必要度が急速に高まります。地域で急増する高齢者を支えるためには、在宅医療体制の整備が必須です。

そのためには、在宅患者の救急時の入院受入れ体制の確立、退院調整など医療機関との連携が不可欠であるとともに、在宅医療に従事する医師の負担を軽減することにより参入する医師を増加させるなど基盤整備が重要となります。そこで在宅医療において中心的役割を果たす医師の団体である愛知県医師会が国からの委託を受け在宅医療サポートセンターを設置し、県内全ての市町村において在宅医療体制の整備を図るとともに、平成30年度までに在宅医療・介護の推進が図られるよう市町村を支援することを目的に設置されました。



## 在宅医療サポートセンターが行う事業内容

在宅医療サポートセンター  
(各地区医師会 4・2カ所) コンダクター 1名

- 1 24時間365日対応可能な在宅医療体制の構築を支援
- 2 在宅医療導入研修を実施
- 3 かかりつけ医普及啓発講習会を実施
- 4 在宅医療に関する相談窓口を設置

在宅医療サポートセンター中核センター  
(二次医療圏 15カ所) コーディネーター 1名

- 1 後方支援病院の確保
- 2 退院調整機能の構築
- 3 在宅医療導入研修及びかかりつけ医普及啓発講演会の開催を支援
- 4 在宅医療連携システムの互換性等の確保

各地区の医療資源の実情に応じた方法で在宅医療体制を整備するために、コンダクターやコーディネーターが3年間かけてこの事業を行っています。  
(一般社団法人安城市医師会在宅医療サポートセンター中核センター コーディネーター永井知直実)

## 新設ステーション紹介

はじめまして、半田市にあります『知多訪問看護リハビリステーション』です。昨年の9月に新しくオープンしました。当ステーションは、看護師とリハビリスタッフがチーム一丸となって毎日楽しく働いております。地域の方々に信頼して頂けるよう頑張っていきます。どうぞよろしくお願いいたします。(管理者 小塚 美里)



## 編集後記

春の訪れを告げるお花のひとつに『白木蓮(モクレン)』があります。真っ白で可憐な花を見ると心が洗われます。見ごろは3日ほどと短いですが、木蓮の木は1億年前ごろには存在していたとか。その頃から変わらずに美しい花を咲かせていることから花言葉は「持続性」。毎日走り続けている訪問看護師さん、一度、木蓮の木の前で足をとめて花の姿や香りを楽しんでみませんか？



## お知らせ

## 平成28年度総会にご参加ください

**日時** 平成28年4月23日(土)  
14:00～16:15  
**場所** 名古屋市中区役所講堂  
**講演** 『地域包括ケアにおける訪問看護師の役割』  
あすか山訪問看護ステーション  
統括所長 平原 優美氏

| 平成28年度事業計画(案)           |                               |
|-------------------------|-------------------------------|
| 精神科訪問看護<br>基本療養費算定要件研修会 | 平成28年6月4日(土)・<br>5日(日)・18日(土) |
| 経営セミナー                  | 平成28年8月6日(土)                  |
| 訪問看護普及啓発講演会             | 平成28年11月頃                     |
| 訪問看護研修会                 | 平成29年1月21日(土)                 |

3月1日にホームページ  
開設しました！

内容も順次整えていきます。  
これから研修内容や情報提供等を掲載していく予定です。  
ぜひ、ご利用ください。

URL <http://aichi-vnc.or.jp>

りあん  
～きずな～Vol.4  
2016

会員数 H28.3.15  
施設会員…284ヶ所  
個人会員……22名  
団体会員……2ヶ所

## 会員の地域での活動報告



## 稲沢市の概要

稲沢市は愛知県の北西部に位置する人口約13万8千人の地域です。名古屋に近いことから、駅周辺にはベッドタウンが広がりますが、市の大半は田畑が広がり、高齢者の割合は24.7%と高齢化は深刻な問題といえます。

## ・設立の経緯

現在、市内の訪問看護事業所は8箇所(訪問看護ステーション7箇所、病院1箇所)ありますが、事業所数においても、利用者数においても近年の大きな伸びはなく、訪問看護の認知度の低さが否めません。

私たち自身が、看護の役割や存在価値をアピールしていくことが必要なのだとあらためて感じます。

平成27年7月に、稲沢市在宅医療・介護連携推進協議会が発足し、医療・看護・介護が一体となって、地域包括ケアシステムの構築を考えることができました。これを機に、訪問看護の質の向上や、市の在宅医療・介護連携推進協議会活動への組織的な貢献を目指して、平成27年11月に稲沢市訪問看護ステーション会を発足するに至りました。この会の発足にあたっては、市内の訪問看護事業所だけでなく病院にも案内を出し、全ての訪問看護ステーションと2箇所の病院の看護師から入会を得ることができました。

## ・活動内容

設立総会と同時開催の第1回研修会には、訪問看護師、病棟看護師、看護職のケアマネなどが参加し、意見交換の時間はとても盛り上がりました。今後も定期的な研修会を企画しながら、地域の看護活動を発展させていきたいと思っています。(稲沢市訪問看護ステーション会 岩野ミカ)

## 一宮市の概要

一宮市は、愛知県の北西部に位置し木曽川の清流に映え繊維産業を基盤として栄えてきました。また、4つのインターチェンジと一宮ジャンクションがあり交通の結節点として産業には重要な位置となってきています。人口は38.6万人、高齢化率は年々増し25.3%と社会情勢を映しています。

## ・設立の経緯

近年、地域包括ケアシステムの構築に向け在宅医療・介護の連携において訪問看護ステーションの役割が大きく期待されています。一宮市や医師会より訪問看護の部会または窓口の問合せを受けるようになり、地域や他機関との円滑な連携を図るため平成27年6月に「一宮訪問看護連絡協議会」を設立しました。当市の訪問看護ステーションは29カ所、会員25ヶ所にてスタートしました。役員は5名で、事業所間の連携を確立しその業務の専門性の研究・協議及び実践により、利用者が安心して訪問看護サービスを受け満足できるよう、また保健・医療・福祉の向上を図ることを目的としました。

## ・活動内容

役員は、一宮市在宅医療・介護連携推進事業に参画し、在宅医療を支える体制づくりの施策に一躍を担うことになりました。情報共有の方法や地域住民が安心して自宅で療養できるサポートセンターの設立に向けた協議、在宅医療の地域住民への普及啓発事業「みんなで考える在宅医療」と題して一宮市住民に向けた講座、多職種連携の研修会等々が活発に開催されることになりました。多職種の間では、まずは顔の見える関係が実感でき、住民からは、医療が自宅でも可能な時代になり介護サービスも知ることが出来たと好評でした。協議会独自の活動としては、まだ手探り状況にあるが、まず看看連携・病診連携さらに多職種連携・協働が円滑に推進できるキーパーソンとなれるよう今後に向け研鑽していきたいと考えています。  
(一宮訪問看護連絡協議会代表 野田明美)



## 愛知県訪問看護ステーション協議会

〒466-0054 名古屋市昭和区円上町26-15 愛知県看護協会立訪問看護ステーションたかつじ内  
TEL:052-871-7611 FAX:052-871-7887

発行日/平成28年3月25日



平成27年度

# 精神科訪問看護 基本療養費算定要件研修会



日時 平成27年 11月15日(日) 11月28日(土)  
11月29日(日) 9時30分～17時30分

場所 名古屋市立大学医学研究科医学部研究棟11階・  
愛知県看護協会1階T1-A教室

愛知県訪問看護ステーション協議会では、平成27年11月に3日間にわたり「精神科訪問看護基本療養費算定要件研修会」を開催いたしました。精神科領域においても入院期間は短縮傾向にあり、また精神疾患を有する利用者さまは増加しています。精神障がい者の在宅療養が推進されるなか、地域で支える訪問看護活動に大きな期待が寄せられています。

この算定要件研修会は、会員の皆さまから「ぜひ愛知県で研修開催をしてほしい!」とのご要望が非常に多かったもので、当初は定員100名を予定していましたが、それをはるかに超える150名以上の申し込みをいただきました。できるだけ多くの皆さまに偏りなくご参加していただけるよう講師の先生方とご相談し114名で開催、最終的に112名の方に修了証を無事交付することができました。職種は看護師91.1% 准看護師4.5% 作業療法士1.8%で精神科訪問看護基本療養費を算定している事業所は59.8%でした。

研修会は、鈴木会長の開会挨拶後に精神障がい者の理解・精神疾患における薬物療法、精神科訪問看護の実際、精神科訪問看護の理解、事例検討、保健・医療サービス提供システムと多職種との連携など算定要件研修に必要な内容と時間数で行いました。講師の先生方から、精神科訪問看護の歴史や背景、看護の実際など具体的な生きた事例を織り交ぜながらお話して下さいました。精神科訪問看護に限らず、「リカバリー・ストレングス・エンパワメント」などの考え方は訪問看護すべての利用者・家族の理解や実践に役立つものではなかったでしょうか。事例検討のグループワークは、活気ある雰囲気で行われていました。他のステーションの方との交流が持て、視点の違ういろいろな意見や考えに新たな気づきや学びを得ることとなり、未経験分野の方にも精神訪問看護への不安が減少する機会になったようです。



事例検討会の様子

受講者の方からのアンケート調査結果では、次年度も精神科訪問看護基本療養費算定要件研修の開催希望は86%と高く、また精神科訪問看護のフォローアップ研修を必要としている受講者も約96%ありました。今後も皆さまからのご意見を反映し、ますます会員皆さまにとって有益な研修会になるようにと考えております。

来年28年度も引き続き、6月4日(土)6月5日(日)6月18日(土)に愛知県看護協会にて開催予定としております。

どうぞ、是非ご参加下さい!



## 東海北陸ブロック交流会

日時 平成27年 10月24日(土)～10月25日(日)  
場所 富山県氷見市阿尾45 磯の音 氷見っ子



平成27年10月25、26日、富山にて東海北陸ブロック交流会が行われ、愛知からは副会長、委員長を含め4名参加しました。静岡は助成金を得てケアマネ研修や認知症研修を活動的に行われていました。岐阜は一般社団法人として法人化され機能されていました。愛知はりあんの発行紹介や精神科算定要件を満たす研修を行ったことを報告しました。また、

宮崎和加子先生によるアクションプラン2025を含めたこれからの訪問看護ステーションのあり方について講演がありました。医療ニーズの高い方を受け入れ地域完結型を推進していくこと、団塊世代の方々が自分らしくワガママに生き生きと生きることを支援することなどのお言葉が印象的でした。またイタリア視察で精神科病床数がゼロという近況報告もお聞きできました。民宿では、富山の幸をたくさんいただき各県の方々と交流し良い時間を過ごしました。来年は三重が会場です。

## 訪問看護普及 啓発講演会

日時 平成28年 2月20日(土) 13:00～15:30

場所 TKPガーデンシティ 名古屋新幹線口 8階 カンファレンスホール 8A

参加者 120名

県民の方に訪問看護をもっと知っていただこうと、「こんにちは!訪問看護です」と題して講演会を開催しました。講演に先立ち、住み慣れた地域で最期まで安心して「その人らしい生活」をサポートできる訪問看護の説明をしました。また訪問看護を利用されて、最期まで自宅で療養された奥さまの介護をされた方の体験談をお聞きしました。

医療法人おかはら会理事長でおげんきクリニック院長でもある岡原仁志医師による「人生の最期を笑って迎える生き方」の講演をお聞きしました。「パッチアダムス」の映画をみて感銘を受け、ハンター・アダムス医師に弟子入りをして始めた、ハグが大きな効果をもたらしています。痛みが取れたり、心の壁がほぐれたりして、笑顔でその人らしく生きています。講演の途中でハグ体験をしました。1分間ずつ3人と方としました。1回目は照れやドキドキ感がありました。回数を重ねるにつれ相手のぬくもりや暖かい心が伝わるような感覚になることができました。参加者の方もとても良い顔をされており、会場が一体になったような感じで実りの多い講演会となりました。

その方のその人らしさをつかみ、より良く生きていくに寄り添えるような訪問看護を提供していきたいと思いました。



笑顔のステキな岡原仁志先生



みんなでハグ体験!

